

2021年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2021年12月23日（木）10時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：17名 オブザーバー：26名 計43名（事務局：5名）

○協 議 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画（第6回変更案）について
（2）その他

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗について
① あきた芸術劇場の整備および事業の実施状況について
② 佐竹史料館の改築について
③ 羽州街道歴史観光推進事業について
④ なかいちウインターパーク事業について
⑤ 秋田駅周辺のマンション建設計画について
⑥ その他
（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
① 広小路バザールについて
② 2021千秋蓮まつりについて
③ アートなまち歩きについて
④ その他
（3）その他

○情報提供 （1）東北経済産業局から「中心市街地活性化等支援事業について」
（2）東北地方整備局から「駅まちデザインの手引きについて」

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ 我が国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、長引くコロナ禍が飲食業・宿泊業、タクシー・バス等の交通業など様々な業種に深刻な影響を与えている。
- ・ 国・県・市の対策により個人消費の改善や賑わい創出など一定の効果が出ているが、本格的な回復には至っていない。オミクロン株などの懸念要因もあり、先行きは未だ不透明な状況にある。
- ・ 国においては、新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の再開等に向けた施策を盛り込む令和3年度補正予算が成立した。今後、早期に事業展開されることを望む。
- ・ 後ほど、東北経済産業局と東北地方整備局から、各施策などについて情報提供いただく。

- ・ あきた芸術劇場ミルハスは、来年6月5日に開館記念式典、9月23日にグランドオープンの予定となっている。それに向けて工事が進められており、外観の姿が見えてきている。9月のグランドオープン以降は、約2,000人を収容する大ホールの予約が12月までほぼ埋まっており、来館者で中心市街地が賑わうことを期待している。
- ・ 今年10月17日に広小路バザールを開催した。当日はあいにくの天候だったが、約2万人が来場し、広小路を中心に周辺一帯が大いににぎわった。
- ・ 今回はトライアル開催であり、課題を整理し改善策を講じるとともに、周辺商店街等と連携するなどし、来年度以降も引き続き開催したい。
- ・ 民間のマンション建設計画について、北都銀行の秋田版 CCRC 拠点施設クロッセ秋田が早期完売したことなどが引き金となり、現在建設中2棟と計画中2棟の計4棟の建設が見込まれる。完成後は居住人口のさらなる増加が期待される。
- ・ 今年度が中活計画の最終年度となるが、後ほど秋田市から、「次期中活計画の策定に向けた考え方」をお示しいただく。中心市街地の活性化は道半ばであることから、次期計画を策定し、それをもとに引き続き活性化を図っていきたい。
- ・ 本日は、中活計画の変更案についてご協議いただくほか、各機関が中心市街地等において実施する事業についてご報告いただく。皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい。

【協 議】

(1) 秋田市中心市街地活性化基本計画（第6回変更案）について

秋田市都市整備部都市総務課の横山課長が以下のとおり説明した。

- ・ 秋田市中心市街地活性化基本計画については、平成29年3月の大臣認定以降、これまでに5回の変更を行っており、現在、官民合わせて66の事業を掲載しているところだが、一部変更点があることから、第6回変更案として提示させていただき、ご意見を伺いたい。
- ・ それでは、第6回変更案の主な項目について、なかこうじ街中ハロウィンフェスタは、2021年度に、経済産業省のGoTo商店街による支援を受けていたため、支援措置区分を、「国の支援がないその他の事業」から「中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業」に変更するとともに、事業名を、GoTo商店街申請時の名称に変更しようとするもの。このことに伴い、「国の支援がないその他の事業」から、同事業を削除している。
- ・ その他計画掲載の各事業の変更などについて、主な内容は、認定申請マニュアルの変更による支援措置区分の変更や語句の修正など、軽微なものであるため、説明は割愛させていただく。
- ・ 今後のスケジュールについて、変更案の認定については、内閣府と事前協議中だが、中心市街地活性化協議会から意見をいただいたうえで、1月中旬に申請を行う予定としており、その後、順調に進めば、3月下旬の変更認定となる見込みである。
- ・ 第6回変更案についての説明は以上となる。
- ・ 続いて、中心市街地の活性化に関する次期計画について、これまで官民一体となって活性化に向けた取組を進めており、その結果、駅前商業地の土地価格の27年ぶりの上昇や令和2年度における中心市街地人口の社会増など、取組の成果が徐々に現れてきたものと認識している。
- ・ 今後の方針について、現計画は今年度で終了となるが、活性化は道半ばであると考えていることから、あきた芸術劇場完成後の効果を踏まえながら来年度に新たな計画を策定し、引き続き、活性化に取り組んでいくこととしたい。なお、現時点では、国の認定に必要な核となるハード事業等が予

定されていないことから、新たな計画は任意計画として策定することとし、今後の状況変化に応じて国への認定申請について検討したい。

- ・ 新たな計画の構成について、認定計画に準じて、目標指標および目標値を設定したうえで、その達成に向けて取り組む官民の事業を掲載することとしたい。
- ・ 計画期間は、2023年4月から2028年3月までの5年間を予定している。
- ・ 目標指標について、歩行者・自転車通行量など現計画における指標を基本としつつ、毎年継続的にデータの採取が可能な指標を採用したい。
- ・ 今後のスケジュールは資料記載のとおりであり、当協議会からのご意見を随時伺いつつ、2023年3月下旬の完成を目指す。

事務局より変更案に対する意見書について、「変更案については妥当なものであると判断するという内容の意見書を提出したい」と提案し、出席者より特に意見はなく、原案どおり承認された。

続いて、中心市街地の活性化に関する次期計画について、出席者より特に意見はなく、計画作成を進めることとした。

【報 告】

(1) ①あきた芸術劇場の整備および事業の実施状況について

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり報告した。

- ・ あきた芸術劇場について、2022年6月の開館に向けて、県とともに建設工事の進捗に合わせて機運醸成事業や記念事業など実施している。
- ・ 今後のスケジュールについて、劇場本体は2022年3月の完成を予定している。駐車場やスロープ、植栽などの一部外構工事は5月20日に完成予定である。3月の本体完成後には、舞台備品等を搬入し、6月1日にあきた芸術劇場の条例施行、あきた芸術劇場 AAS 共同事業体の指定管理により6月5日には記念式典を開催し、同月6日からホール以外の研修室や練習室など計17室の供用を開始する。9月23日にはグランドオープンイベントを実施し、9月26日からホールを含めた全館の供用を開始する予定である。
- ・ 開館に向けた機運醸成について、あきた芸術劇場 AAS 共同事業体が事業を展開している。2021年11月に音楽やダンスの基礎を学ぶワークショップを秋田市文化創造館など県内3か所で開催したほか、開館記念事業として行う県民・市民参加型ミュージカルの出演者を公募し、54名に応募いただいた。
- ・ 2022年1月下旬から2月上旬まで公募による工事現場見学会の開催を予定している。3月には、県民会館を振り返る写真展をフォンテ AKITA6階のあきた文化交流発信センター（ふれあーる AKITA）で開催するほか、ケヤキの木をモチーフにしたツリーアートイベントを秋田市文化創造館で開催する予定である。
- ・ 6月の開館後は、スタッフの設備操作等の習熟訓練を目的とし、県内文化芸術団体等によるホールのお試し利用を実施し、9月上旬までを予定している。
- ・ 6月5日に開催予定の開館記念式典について、第一部は中ホールを会場とし、記念式典および記念公演を行う。
- ・ 第二部は大ホールを会場とし、秋田県吹奏楽連盟の演奏、秋田県合唱連盟の合唱による記念演奏「大いなる秋田」を予定している。

- ・ 9月23日に開催予定のグランドオープン記念特別公演について、大ホールを会場とし、小山実稚恵と新日本フィルハーモニー交響楽団によるクラシックコンサートを予定している。
- ・ 2023年1月14日、15日に開催予定の県民・市民参加型ミュージカルについて、中ホールを会場とし、題名は「櫂の記憶・蓮のトキメキ」とする。応募いただいた54名の県民・市民を対象としたワークショップや稽古を12月11日から開始している。
- ・ 引き続き、秋田市文化創造館や芸術文化ゾーン内の施設等と連携し、中心市街地の活性化に繋がるよう県とともに取り組んでいく。

(1) ②佐竹史料館の改築について

秋田市立佐竹史料館の菅原事務長が以下のとおり報告した。

- ・ 佐竹史料館改築基本計画の骨子（案）の基本理念について、目指す施設像は昨年度策定した基本的な考え方で定めた「①秋田藩の歴史を詳しく、楽しく伝える施設②市民の郷土学習を支援するとともに人材育成に寄与する施設③貴重な歴史遺産を後世に継承しながら、地域活性化に寄与する施設④誰もが気軽に訪れ楽しむことができる施設」の4点を継承することとしている。
- ・ 施設整備の考え方について、佐竹史料館を核として、久保田城御隅櫓、御物頭御番所といった千秋公園内の歴史施設を（仮称）千秋歴史博物館と名付け、久保田城跡である千秋公園全体を見据えた博物館機能の強化、観光振興、賑わいづくりを推進する施設として整備することとしている。
- ・ 名称については、仮称でありコンセプトに沿って様々なご意見を伺いながら検討していく。
- ・ 佐竹史料館を核とした（仮称）千秋歴史博物館の目的、構成等について、目的は、本市における最大の歴史的・文化的遺産と言うべき久保田城跡・千秋公園を関連する歴史資料とともに、一体的に保存・継承していくことで、歴史観光資源としての千秋公園の魅力を高め、観光振興・賑わいづくりに資することとしている。
- ・ 施設構成について、改築する佐竹史料館とともに、久保田城御隅櫓、御物頭御番所を久保田城跡・千秋公園における総合的な歴史博物館を構成する施設と位置付け、3施設の組織的一体化により、総合的な歴史博物館を形成する。また、それぞれの施設を拠点としたAR・VRなどを取り入れ、城跡としての景観の復元などに取り組むこととしている。各施設の名称と機能については配布資料に記載のとおり。
- ・ 佐竹史料館改築計画について、ここからの計画の概要については、別添の図で説明させていただく。現在の動線は佐竹史料館のところで行き止まりのような形になっている。骨子案では改築後の佐竹史料館が芸術文化ゾーンの動線をつなげる役割を果たすものとなっている。
- ・ 新たな佐竹史料館の東側に大型の庇を設置するとともに、現在あまり使われていない黒門の堀脇を通る趣のある小道をアクセスルートとして整備し、佐竹史料館と結びつけることにより、芸術文化ゾーンの動線を円状につなげ、文化施設のネットワーク化を図り、回遊性を高めることができるものと考えている。また、新たなアクセスルートは、従来の中土橋・大坂ルートと、大手門通りから黒門跡を経由するルートと比較して、坂道の距離が短くなる。
- ・ 新たな史料館の間取りについて、1階北側に二の丸の売店機能を移転し、ミュージアムショップ機能も持つショップを配置するほか、収蔵庫、常設展示室、企画展示室を設ける予定である。2階部分は、資料室、事務室、講堂、機械室を設ける予定である。また、大型の庇を設置することにより、屋外のアプローチと屋内のホールに加え、屋上にくつろげるスペースとなるテラスを設ける。

- ・敷地の西側には、マイクロバス、タクシーの待避所と、高齢者・身障者用駐車場4台分を整備する予定である。
- ・諸室の配置等によって計画施設の延床面積は 2,200 m²を予定しており、昨年度策定した佐竹史料館改築の基本的な考え方で想定していた 1,500 m²を 700 m²程増加することとなるが、こちらは、二の丸売店機能を統合したショップが新たに加わったこと、大型の庇によって創出される1階の屋内ホール部分、トイレ、階段、エレベータ、機械室などの検証による面積の見通しとなっている。
- ・展示計画について、常設展示は佐竹氏や秋田藩の歴史について理解が深まるよう、展示ストーリーに基づいたテーマを設定することとしており、テーマごとに、パネル、ジオラマ等模型、実物資料などを組み合わせたユニットを作成しての展示を想定している。また、千秋公園内における展示機能の中核として、来館者を千秋公園をはじめ市内の史跡、文化財、文化施設に誘う展示とする。展示タイトルと内容の事例については配布資料に記載のとおり。
- ・文化財の魅力を伝える工夫として、適宜展示替えを行うほか、様々な角度から鑑賞することができるような展示ケースの配置や、映像やジオラマによる景観の復元、紹介などを行う予定である。
- ・企画展示について、様々な展示に対応ができる間仕切り、照明、展示ケースによって環境を整備し、展示テーマは、常設展示の8つのテーマを掘り下げた内容の企画展を開催するほか、他の施設からの資料借用を念頭に、「日本の歴史を俯瞰する」、「佐竹氏、秋田藩と関係が深い地域の歴史に焦点をあてる」、「新たな歴史研究の成果の紹介」などのテーマによる企画展の開催を想定している。
- ・その他の取組等として、ホールや講堂などの無料エリアを設定し、講座や情報発信を行うことで、千秋公園への来園者を館内に呼び込む取組や、館外において、歴史愛好家や観光客の関心を高める体験型の講座やイベントを展開していくことを想定している。
- ・事業スケジュールについて、本年度の改築基本計画の策定、2022年度に現施設の閉館、解体工事、発掘調査の開始、基本設計・実施設計を行い、2023年度に建設工事着手、展示する模型などの作成を開始し、2024年度末の開館を予定している。

【意見・質問】

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・黒門堀脇の小道を新しく設定されるとのことで、通り抜けのルートになるので好ましいと思ったが、説明の仕方として、近道、坂道が短縮されるという表現は勾配が急になると捉えられる可能性があるため、別の表現を検討してはどうか。
- ・AR・VRという最新技術を活用することを否定はしないが、デジタルコンテンツの技術進化は非常に早いため、更新にかかる費用を見込む必要があるため、それを覚悟して導入するようにして欲しい。数年後には廃れたものになってしまう。自身の専門的な立場からすると、発展途上のAR・VRに費用をかけるよりは史料館の貴重な展示物を見せるための什器などを充実させるほうが望ましい。世界的な博物館等で使っている什器は様々な技術を活用し展示物などをより良く見せる工夫がなされている。参考にしていきたい。

佐竹史料館の菅原事務長が以下のとおり発言した。

- ・黒門堀脇の小道について、確かに傾斜があるので、整備する際は角度も含めどのような足元がいいか十分検討したい。

- ・ AR・VR の活用と実物使用のバランスについて、ご意見のとおり更新性が非常に重要であり、その時の技術に頼るだけの展示とならないよう、実物使用とそれを付帯する映像やパネルを活用し皆様に楽しんでもらえる施設を目指したい。

久保田城址歴史案内ボランティアの会の小国会長が以下のとおり発言した。

- ・ 中心市街地、特に芸術文化ゾーンについては様々な施設が整備されており、特にあきた芸術劇場の整備と佐竹史料館の改築により人が大きく動くことが予想される。
- ・ 千秋歴史博物館（仮称）の中の佐竹史料館という捉え方について、千秋公園という名称は明治 30 年代中頃に命名されたもので、藩政時代に比べると最近のことである。久保田城址より千秋公園のほうが内外に通りがいいためか千秋公園と呼ばれており、千秋歴史博物館の名称に反対するわけではないが、「佐竹」という名前をもっと前面に出すべき。

(1) ③羽州街道歴史観光推進事業について

秋田市文化振興課の畠山課長が以下のとおり報告した。

- ・ 10月3日（日）に羽州街道歴史まつりを開催し、1,031 人 に参加いただいた。羽州街道が持つ歴史的・文化的価値を見直し、街道沿線の魅力を再発見し、賑わい創出を図ることを目的に開催するもの。これまでは文化財を修復し、見ていただくような活用方法が中心だったが、それに留まらずいかに文化財を活用していくかを再発見するために取り組んでいる。
- ・ 赤れんが郷土館では、「イザベラバードの久保田紀行」を NPO 法人土方巽記念秋田舞踏会が舞踏劇を披露した。
- ・ 旧金子家住宅で実施を予定していた御茶席は、残念ながらコロナの影響により中止となった。
- ・ 民俗芸能伝承館では、日本舞踊が披露された。
- ・ 秋田城跡歴史伝承館では、イザベラバードが旅した羽州街道と題した講演会を行った
- ・ 土崎みなと歴史伝承館では、落語、民謡によって土崎の歴史を伝える講演会を行った。
- ・ 旧松倉家住宅で行った見学会には、地元の町内会を含め多数の方から参加いただいた。
- ・ ウォーキング事業について、登城コース、外町～城内コースをガイド付きで行ったほか、フリーウォーキングの河辺～御所野コースを設定し、各参加者にまち歩きを楽しんでいただいた。
- ・ 今年度はイザベラバードにスポットを当てて事業を展開している。来年 1 月 30 日から、秋田市にぎわい交流館において「ミュージカル レディ・トラベラー～イザベラバードが出会った秋田～」が開催される。市内の小・中学生を無料で招待するなどし、郷土愛の醸成につなげていきたい。
- ・ 来年度の方向性について、旧松倉家住宅が 2022 年 12 月に完成し、2023 年 3 月に開館予定である。旧松倉家住宅を羽州街道の南側拠点の一つに位置付け、本住宅をベースとした情報発信や賑わい創出等に繋がる事業を展開していきたい。
- ・ 2022 年度から 2026 年度を計画期間とする文化振興ビジョンを策定中である。秋田市の文化振興の基本的な方針や重点施策を掲げ具体的な成果を上げるために定めるもので、現在、パブリックコメントを募集している。本ビジョンのポイントは二つあり、一つ目はコロナ下における文化施策を如何に進めるか。二つ目は担い手の育成である。「芸術文化ゾーンを中心とする文化の力を活かしたまちづくり・賑わいづくり」も一つのテーマとして掲げ、引き続き取り組んでいきたい。

(1) ④なかいちウインターパーク事業について

秋田まちづくり㈱の畠山社長が以下のとおり報告した。

- ・ なかいちウインターパーク事業は、イベントの少ない冬期間に開催し、エリアなかいちを中心に賑わい創出を図るために実施するもの。なかいちが開館した平成 24 年から開催しており、来年 10 周年を迎える。
- ・ 今年度は、中心市街地全体がライトアップされる「あきた光のファンタジー」の一環として、エリアなかいちでは、「ほっこりと心温まるイルミネーション」をテーマとし約 10 万球の LED で装飾している。具体的には、昨年も好評だった藤の花のイルミ、たんぽぽの綿毛のようなイルミのほか、4.7mのクリスマスツリーを新調している。目玉はにぎわい交流館と県立美術館の間のガラス屋根を LED で囲い、色が変わるボールを 20 個吊り下げた光のトンネル。
- ・ あきた光のファンタジーフォトコンテスト 2021 について、SNS による情報の拡散と、写真撮影で中心市街地の各スポットを周って欲しいという趣旨で実施している。昨年は約 600 件の投稿があり、今年は 12 月 22 日時点で 630 件の実績となっている。締切は 12 月 26 日まで。
- ・ ナカイチクリスマスマーケットについて、クリスマス仕様の特注の木製屋台による出店とクリスマスイメージのスペースを設けている。先週 12 月 17 日から 19 日は天候により中止としたが、今週は実施中であり、秋田商業高校の生徒たちが冬の賑わいづくりのために JTB と合同で実施した事業の成果発表の場としてクリスマスマーケットに参加し、ペットボトルで作ったクリスマスツリーの制作・展示、オリジナルのクリスマスケーキの販売を行っている。
- ・ なかいち新春まつりについて、餅つきやミニ門松の製作体験を行うほか、寛文五年堂の提供による年明けうどんのふるまい、御厨光琳の提供によるお雑煮のふるまいなどを予定している。
- ・ 2 月は、なかいちバレンタインウィークを実施する。氷柱花、蓮の花の氷像、キャンドルアートなどインスタ映えするスポットを設ける。また、オルディネールショコラとコラボし限定スイーツを販売する。
- ・ 年末カウントダウン、カウントダウンの花火、年越し直後の餅まきは密になる可能性が高いので中止となるが、感染対策を十分講じるなど工夫しながら冬場の賑わいづくりに取り組んでいく。

(1) ⑤秋田駅周辺のマンション建設計画について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市建築指導課に申請のあった中心市街地内における民間マンションの建設計画について、秋田中央警察署となりの敷地に建設中のマンションは、埼玉県のリベステが申請会社であり、戸数 52 戸、2022 年 10 月竣工予定となっている。
- ・ 秋田オーパ北側に建設中のマンションの申請会社は宮城県のタカラレーベン東北、戸数 83 戸、2023 年 2 月竣工予定となっている。
- ・ 今後建設予定の 2 棟について、金萬ボーリングなどが入居していたビルの跡地に建設予定のマンションの申請会社は千葉県の新昭和、戸数は 105 戸の予定である。
- ・ ホテルハワイラグーン跡地に建設予定のマンションの申請会社は宮城県のダイワハウス工業、戸数 140 戸の予定である。その他、秋田市への申請はまだ無いが、駅前のホテルハワイ跡地にタカラレーベン東北が建設予定のマンションがあり、これらすべてが建設された場合、居住者の増加による賑わいが期待される。

(2) ①広小路バザールについて

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 10/17 に広小路バザールを初開催し、約2万人の方が来場し、広小路を中心に周辺一帯がにぎわった。
- ・ 出店者について、県内事業者が67コマ出店者し、市内事業者は34コマ出店いただいた。秋田公立美術大学生にも2コマ出店いただき、アクセサリー等服飾雑貨を販売いただいた。
- ・ 今後の課題について、出店関連では、今回雨風が強く一部テントが強風で破損したことをふまえ、風の強いエリアにキッチンカーを配置するなど会場レイアウトを見直すほか、天候に応じたテントウエイトの追加や、実施可否の判断基準・日時を明確にし対応していきたい。
- ・ 会場関連について、来場者に対する会場スタッフの対応・おもてなし力のさらなる向上を図ってきたい。なお、今回は秋田商工会議所事務局および青年部、秋田青年会議所からの動員で運営したが、来年度以降は、大学生などボランティアスタッフを募り、より手厚い人員体制で運営したい。
- ・ 会場周辺の駐車場対策について、なかいち駐車場では閉会後に在庫車両が集中し、中央通りへの渋滞が生じたことを踏まえ、閉会後の交通規制解除時間を早めることを検討するなどし渋滞緩和を図りたい。
- ・ 会場周辺について、手形陸橋から広小路など周辺道路で交通渋滞が生じたことを踏まえ、開催当日、要所で迂回案内をするほか、交通規制の告知期間を十分設けるとともに、テレビCMなどで交通規制の情報を事前告知するなどし対応していきたい。
- ・ 商店街等との連携について、今年度開催したことにより、会場周辺の飲食店では平時の2倍以上の売上があったと反響をいただいているほか、駅前の大型商業施設からは来店者数が2割以上増加し、来年度は広小路バザール開催に併せ連携事業を検討したいとの意向を伺っている。より効果的な事業となるよう、周辺の商店街、商業施設と連携した開催方式を検討していきたい。
- ・ これら課題等を踏まえ、来年度は年2回開催を目指し、関係機関と事前に十分調整のうえ、開催時期・方法を今後検討していく。

(2) ②2021 千秋蓮まつりについて

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市の都市型観光の魅力アップと観光消費額の拡大に向けて、秋田市ナイト観光検討委員会において東北DCに照準を合わせ準備を進めてきた事業。
- ・ 千秋公園お堀の蓮のライトアップ事業と4つのソフト事業を秋田観光コンベンション協会と連携し実施した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大による県の警戒レベル引き上げに伴い、ライトアップの臨時停止やソフト事業「LOTUS FESTIVAL」は中止となった。
- ・ ソフト事業の一つ目、「グルメパスポート&秋田の地酒で乾杯券」について、市内飲食店41店の協力のもとお得なディナーメニューの提供と乾杯用の地酒サービスを実施し、当初ターゲットとしていた観光客が少ない中、合わせて224件ご利用いただいた。
- ・ 二つ目「千秋公園朝観光」について、土・日曜日計12日間実施し、113人が参加した。観光案内人の会のガイドによる千秋公園の散策と、本丸のあずまやでNPO法人秋田千秋はずの会から蓮茶を提供いただいた。
- ・ 合わせて実施した体験観光について、あきた舞妓、秋田市民市場の「のっけ丼」を実施した。当初予定していた秋田犬とのお散歩体験について、前半は気温が高く、後半はコロナの感染拡大で中止となった。

- ・ 蓮の花フォトコンテストについて、330 件応募いただき、その中から入賞 26 作品を選定した。広小路の街路灯 41 箇所に応募作品のバナーを展示したほか、にぎわい交流館 AU1 階で写真展を実施し、入賞作品を掲載するポストカードや団扇を作成し、来場者に無料で配布した。

(2) ③アートなまち歩きについて

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ これまで中心市街地内の芸術文化情報を主体に発信してきた情報誌アートなまち歩きについて、今年度から芸術・文化のほか、商業情報を加え紙面をリニューアルした。中心市街地内の芸術・文化施設や商業・宿泊施設に設置しており、各施設から在庫がなくなり追加設置の依頼があるなど一定の需要があると認識している。現在は設置部数を見直すなどし、在庫切れが生じないよう対応している。
- ・ 今年 7 月にウェブサイト版を開設した。リーフレット版に記載しきれない情報も掲載しており、開設から 11 月末までの 5 か月間で約 1.4 万回の検索をいただいている。高校生主体の美術展や文化祭のほか、コスプレ等のサブカルチャー関連の催事など、自前のウェブサイトを有しないイベントなどの情報を求め検索される傾向がある。
- ・ これら傾向を踏まえ、大小問わず、芸術・文化情報の充実に努めるほか、商業催事についても充実させ、中心市街地に特化した情報源サイトになるよう運営していく。

【意見・質問】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ これまで報告いただいた事業を含め中心市街地の活性化に資する事業が多数展開されている。ユニークなわがまちと呼ばれる中心市街地をつくるための方法について提案したい。
- ・ 実施されているイベントについて、商店街等が主体となっているものがないと感じられるので、商店街主体の事業展開が望まれる。例えば、大曲市の商店街で実施している「まちなかゼミナール」では各参加店が業界の専門知識等を住民等に紹介し好評である。
- ・ 非日常的なイベント開催による賑わいづくりだけでなく、日常の衣・食・住に関する年配の方の生活の知恵を若い世代に移植するような多世代交流を目的としたゼミの開催や、日常生活を補完する交流拠点が設置されれば、「わがまち」として中心市街地に愛着が湧く。
- ・ 中心市街地の情報をホームページなどデジタル媒体で発信されているが、逆に手書きなどアナログな発信方法もインパクトがあると思う。

仲小路振興会の三浦副会長が以下のとおり発言した。

- ・ 今年度、朝なかいちを全 6～8 回開催し、朝 8 時から 9 時半の時間帯で花屋や食器屋などで商品・サービスの説明やワークショップを実施した。仲小路にある個店を再認識いただくとともにお店の魅力発信が目的。来年度以降も実施していきたい。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ ミルハスが来年開館するにあたり、協賛イベントなどによるにぎやかしの相談はあるが、実施にあたる財政的な措置はあるのかなど協議できればありがたい。当協議会は、そういった先を見越した話し合いの場であって欲しい。

- ・ 秋田市が外旭川地区のまちづくりについて、パートナー事業のプロポーザルを実施予定であるが、民間施設の提案内容がどのようなものになるかは中心市街地に少なからず影響があると思っている。そういったまちづくりの根幹に関するることについて協議していくべきではないだろうか。

三浦会長が以下のとおり発言した

- ・ 中心市街地近隣の開発を無視することはありえないことであり、また、まちづくりは中心市街地のみで成り立つものではないので、適宜議論していきたい。

【情報提供】

〔1〕東北経済産業局から「中心市街地活性化等支援事業について」

東北経済産業局商業・流通サービス産業課 伊藤課長が資料に基づき以下の事業を紹介した。

- 地域の持続的発展のための中小事業者等の機能活性化事業
- がんばろう！商店街事業（旧 GoTo 商店街事業）
- 東北地域中心市街地および商店街関連セミナー～まちの人材育成編～

〔2〕東北地方整備局から「駅まちデザインの手引きについて」

東北地方整備局都市・住宅整備課の村山課長が資料に基づき、以下の事業を紹介した。

- 駅まちデザインの手引き

閉 会